
本校の入学試験について

多治見西高等学校附属中学校

1. 学力検査のねらい

本校の入学試験は、受験競争の勝者を選ぶためのものではありません。本校の教育を受ける上で必要な学習姿勢と関心の深さや広がりを見ようとするものです。中学校で学ぶべき知識は本校へ入学してから十分ついていきますので、小学6年生の段階では、先取りした受験向け学習や問題解法の暗記は不必要と考えます。

したがって、本校の入学試験に出題される問題は、基本問題とお考えください。例えば、言葉・漢字などの基礎言語力、分数・割合などの基礎計算力がきちんと身につけているか等を問う問題が中心です。

本校は、きちんと学ぼうとする意欲を強く求めます。

入試得点がいくら高くても、生徒自身の学ぶ意欲が弱ければすぐに学業は行き詰まります。逆に、基礎学力が不足していれば興味や関心を学習に結びつけることができません。本校の授業を生き生きと学び、興味を広げ関心を深めながら成長するためにも、小学校の段階でこれだけの力をつけておいてほしい、それを確かめるのが本校の入学試験だとお考え下さい。子どもが本来持つ向上心と自発性を伸ばす機会の一つと考えていただきたいと思います。

本校生徒は、宿題や課題に対して責任感をもってやり抜く生徒がほとんどです。少人数制の学校に適合する生徒、本校の授業や活動で伸びる生徒は、競争だからがんばるのではなく、学ぶこと自体に楽しさを感じるのです。授業での集中力と、はじけるような明るさの両面が、本校の大きな特色であり、良さであると思っています。

本校の入学試験は、このような生徒たちの後輩をつくるためのものです。基礎的な学習に自分の意志で取り組み、興味を持って学習にあたる生徒を待っています。

II. 国語・算数の出題と学習について

出題は、小学校6年生までの学習範囲としています。出題内容は、小学校学習範囲を逸脱することはありませんが、グラフや表の読み取りなど思考力を必要とする出題が含まれることもあります。

(1) 国語

国語の出題は、長文問題が二題（物語一題と説明文一題）および語句・漢字などの知識を問う問題となっています。

- 日本語を正しく学ぶためにはやはり読書が一番です。文章の中から語彙を学び、語彙力が向上すると表現力も豊かになってきます。毎日の読書は大切です。
- 長文問題は、今まで読んだことのない文章を読んで、答えていかなくてはなりません。小学校の授業では、あまり扱われませんので市販の問題集で練習しておくといいでしょう。
- 語句の知識については、ことわざや慣用句がよく問われています。言葉に親しみ、その言葉の意味を正しく理解しておく必要があります。
- 漢字の学習は、中学校以降も続きます。正しく漢字を覚えることは、小学校の期間からぜひ身につけておいてほしいことです。書き取り問題だけでなく、漢字の意味を正確に理解しているかどうかを問う出題があります。やはり言葉や文に親しみ、言葉の意味を考えながら文を読む習慣をつけることが最も効果的な学習です。

(2) 算数

算数の出題は、基本的な計算、速さ、割合、図形などの問題や思考力を試す問題です。

- 小学校で使用している教科書やドリルなどを使って基本的な事柄をしっかりと理解し、反復練習することによって正確に解答する力を養っておく必要があります。
- 速さや割合などの文章題も出題しますが、特別な解法が必要な問題ではありません。問題文をしっかりと理解し、答えを求めていきましょう。市販の問題集などでトレーニングしておくとういでしょう。
- 数について考えたり、推理する力を問う出題もあります。落ち着いて自分で考えて解く姿勢が必要です。ある程度時間をかけて解く問題にも慣れておくとういでしょう。